

道路インフラ整備は 山梨県経済発展の起爆剤

県内の企業経営者が業種の垣根を越えて集い、

山梨県の経済発展のための政策提言を行う

山梨経済同友会

道路整備によつて生まれる

多様なビジネスチャンスに期待が寄せられています。



山梨経済同友会 代表幹事

入倉 要 氏

中部横断自動車道部会 部長

五領田 周司 氏

中部横断自動車道部会 副部長

依田 光人 氏

ていきたいと思つています。

若き起業家を育てる

「つばさを広げる会」

入倉・山梨経済同友会が最近力を入れていてのが、若き起業家を育てる取り組みです。最近の若者は安定志向といわれていますが、ぜひ大きな夢を持つてほしい。そこで県内の5つの大学と山梨県、そして我々が連携し、「つばさを広げる会」を立ち上げました。優秀な大学生150名を集め、一流の経営者を招いて、起業するまでのストーリーを失敗談も交えながら話してもらっています。ここで刺激を受けて、自分もいつか故郷で一旗揚げたいと思う若者が出てくれるといいですね。

**中部横断自動車道の開通で
山梨県を広域経済圏の中心に**

入倉・山梨県民が待ち望む中部横断自動車道は、残りの「下部温泉早川IC―南部IC間」(13.2km)が2021年夏頃には開通する見込みで、山梨(双葉)から静岡まで全通します。

山梨―静岡間の移動が1時間も短縮され、国道52号線の高規格代替路として、また中央自動車道と東名高速の接続高速道路として、山梨県への様々な効果が期待されています。

依田・中部横断自動車道は自然災害時の緊急

輸送路、避難路としての役割も担っています。

若き起業家を育てる

「つばさを広げる会」

入倉・山梨経済同友会が最近力を入れていてのが、若き起業家を育てる取り組みです。最近の若者は安定志向といわれていますが、ぜひ大きな夢を持つてほしい。そこで県内の5つの大学と山梨県、そして我々が連携し、「つばさを広げる会」を立ち上げました。優秀な大学生150名を集め、一流の経営者を招いて、起業するまでのストーリーを失敗談も交えながら話してもらっています。ここで刺激を受けて、自分もいつか故郷で一旗揚げたいと思う若者が出てくれるといいですね。

**中部横断自動車道の
経済効果は1335億円**

入倉・中部横断自動車道の経済効果は1335億円と、昨年山梨大学と共同記者会見で発表しました。

五領田・きれいな水や空気、自然に恵まれた山梨は精密加工や医療器具などの工場にも最適なポテンシャルのある場所です。すでに医師会や医療機関と連携し、医療健康産業クラスターを形成する計画も進んでいます。中部

横断自動車道の開通で物流が効率化することで、工場の誘致にもつながるはず。コロナの影響で海外の生産拠点が日本に移れば、山梨も活性化し、大きな経済効果が期待できます。

依田・コロナ禍で地方にオフィスを構える動きもできました。開通でアクセスがよくなれば、自然豊かな山梨で子育てをしながら月に数回都心へ出勤するという形態の広まりと共に、定住人口の増加にもつながります。

入倉・観光面でも山梨には様々な特色を持った市町村があり、各々単独で頑張っていますが、個々の点では魅力があつても来訪しようというきっかけにはなりにくい。点が道路という線でつながり、面としての地域の魅力が伝われば観光で訪れる方も増えると思います。開通で関西圏からのアクセスも良くなり、静岡経由で来られるようになればさらに集客が見込めます。さくらんぼや桃など、季節の果物狩りもぜひ楽しんでいただきたいですね。

この状況は山梨にとつて千載一遇のチャンスです。ただ、道路が開通したとしても、すべてが良くなるわけではありません。皆が豊かに暮らせるためにはどうすればよいか、県民全員がワンチームとなつて考え、行動していくことが今求められています。山梨経済同友会では、中部横断道が山梨県経済発展の起爆剤となる活動を今後行つていきます。

**女性もイキイキと働く
山梨県を目指して**

入倉・山梨経済同友会は1997年9月に創立、公的補助金は受けず、企業経営者が個人として参加し利害を超えた幅広い先見的な視野から、山梨県の経済発展のための政策提言を行つていく団体です。現在、山梨県が抱える一番の問題は人口の減少。地元の高校を卒業し東京の大学に行つた学生のうち、戻るのはわずか4分の1ほど。中でも女性のUターン率は低く、女性もイキイキと働きやすい県を目指す取り組みとして、「女性パートナーミーティング」を立ち上げました。県内の企業で活躍している女性社員にお集まりいただき、様々な経営者と情報交換していくいただく場です。

五領田・私は今年、東京ガスの本体から山梨へ赴任してきました。東京ガス山梨株では、まだ本体のような女性が活躍できるポジションが少なく、今後はもっととした場を作つていただきたいと考えています。

依田・私の会社は広告全般を扱う印刷関係で、多くの女性が専門職のデザイナーとして働いています。地方の中小企業ではまだ育休や時短勤務などの手厚い制度は難しく、今後は行政のバックアップなども得ながら、結婚・出産後も安心して仕事を続けられる環境を整え